

編集後記

昭和五十八年から町史編さん事業に着手し、今年で五年目を迎えることとなります。

当初、町史編さんという初めての事業に戸惑いながらも、我がまちの歴史を纏めるのだという情熱を支えに取り組んだことを思えば瞬時の五年間でした。

他の市町村史とは一味違った我が町独自のカラーを出したいということで、参考資料版を三冊刊行することにしたのですが、本書はその締め括りの第三冊目で、町民のみなさんの手による原稿で編集されています。

編さん委員・地元協力委員のみなさんの口コミや「広報せいか」で幾度となく原稿を募集したり、また説明会を開催したりで、昭和六十二年十月末の締切までは正直、不安がいつぱいでした。とにかくこの第三冊目は応募原稿が出揃わないと刊行することはむづかしいと思っていました。予想していた以上に沢山の方々の原稿が集まったのです。郷土史家としてこれまで地道に研究されていた方や初めて原稿用紙に向かわれたという方の作品など合計二十一編もの応募がありました。

原稿が集まると今度は審査ですが、専門委員として印南敏秀氏（京都府立山城郷土資料館資料課技師）、門脇禎二氏（京都府立大学学長）と黒川直則氏（京都府立総合資料館資料主任）、田中淳一郎氏（京都府立山城郷土資料館資料課技師）をお願いし、応募者の皆さんの原稿への助言や指導を仰ぎました。

折角の原稿を書き直していただいた方や削ったりまた書き加えてもらったり、応募者の方たちも、労を惜しまれず事務局としても頭の下がる思いでした。そして、皆さんの町の歴史に対する情熱を目の当たりにし、やって良かった、という思いが湧き上がりました。

また、章立の際、本書全体の流れをどうするかということでは、専門委員の各位に再三の討議をわずらわし決定しました。大きな流れとしては、まず史跡関係、そして民俗とし、民俗の中でも前半は神社関係、後半には日常の暮らしについて配しています。

なお、本文中に使用した写真は大半が執筆者自身の提供によりますが、一部、参考資料版二『写真で見ると風景』から転載したものや、事務局が撮影したものも含んでいます。

編集・レイアウトは黒川直則氏の指導・助言を得、東義久が担当しました。

最後になりましたが、筆者の方たちは言うに及ばず、今回応募されなかった方たちも側面からの多くのご協力をいただき助けられ刊行することが出来たのです。

この書が、我がまちの歴史を見つめ、理解し、新しいまちづくりのきっかけになればと願ってやみません。これからいよいよ精華町史資料編や本文編の刊行が続きますが、ますますのご協力とご助言をお願いいたします。

昭和六十三年三月 初版本の刊行に際して

精華町史編さん事務局

※本書は、昭和 63（1988）年 3 月に刊行した『精華町の史跡と民俗』を一部改訂し、平成 30（2018）～令和元（2019）年度にデジタル版（電子書籍）として作成・公開しました。

※今回のデジタル化にあたっては、執筆者による文章そのものが、貴重な歴史的な証言・記録となっていることから、明らかな誤字等を修正するだけに止めています。行事の内容などについては、現在では休止・変更され、現状とは異なる場合もあります。閲覧にあたってはこの点にご留意ください。

精華町の史跡と民俗 デジタル版

令和 2（2020）年 3 月 初版

編集・発行 精 華 町

京都府相楽郡精華町大字南稲八妻
小字北尻 70

